

平成31年3月11日

保護者様

名古屋市立鳴子小学校長

山田浩司

平成30年度 学校評価について

日ごろは、本校の教育に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。さて、2学期末にご協力いただきました「鳴子小の教育に関するアンケート」の結果がまとまりましたのでお知らせします。

記

1 評価の観点

- A 意欲的に学習に取り組む・基礎基本が身に付いている。
- B 思いやりの心が育っている・進んで行動できる。
- C 進んで運動に取り組もうとしている。
- D 学校生活を楽しんでいる。
- E 学校の様子がよくわかる。

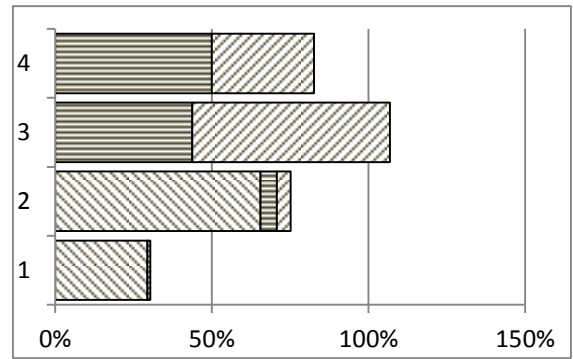
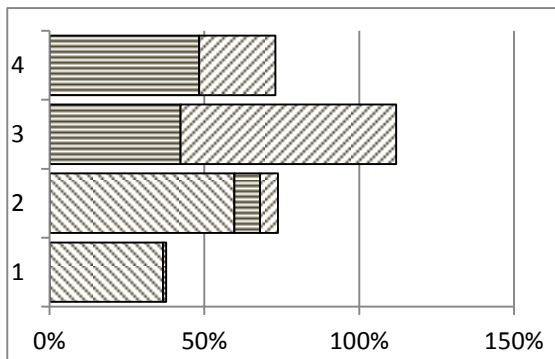
2 分析について

- ・ 観点Eにつきましては、児童アンケートは行っていません。
- ・ 児童・保護者・教職員のアンケート結果をそれぞれ100%とし、比較表にまとめました。
- ・ 学校評議員会において、この結果を示し評価をいただいています。
- ・ この評価結果は、次年度の学校運営に生かしていきます。

学校評価結果の比較表(児童 保護者 教職員)

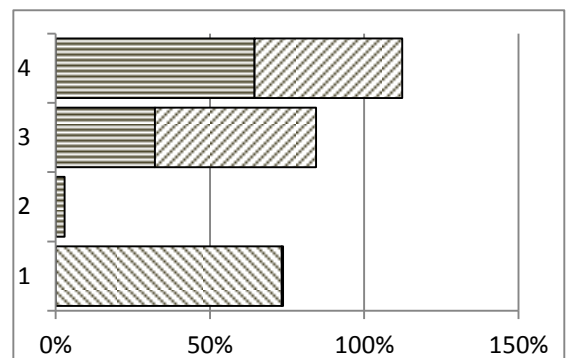
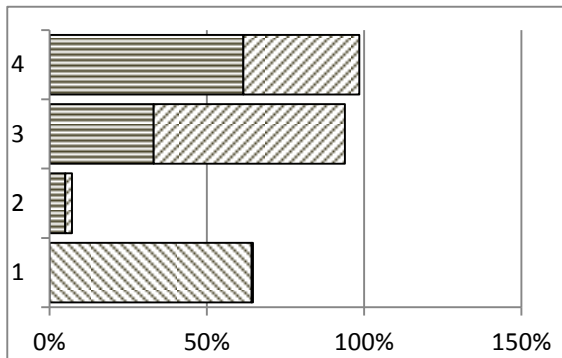
<A> 意欲的に学習に取り組む・基礎基本が身についている

 思いやりの心が育っている・進んで行動できる



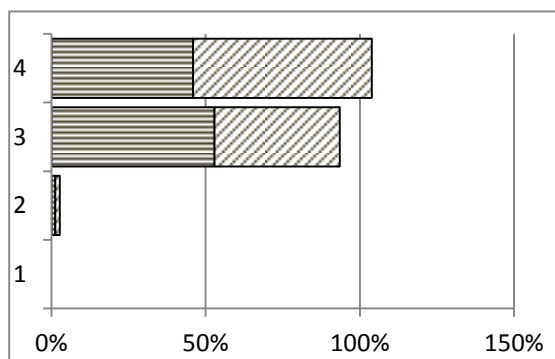
<C> 進んで運動に取り組もうとしている

<D> 学校生活を楽しんでいる



<E> 学校の様子がよくわかる

※児童実施せず



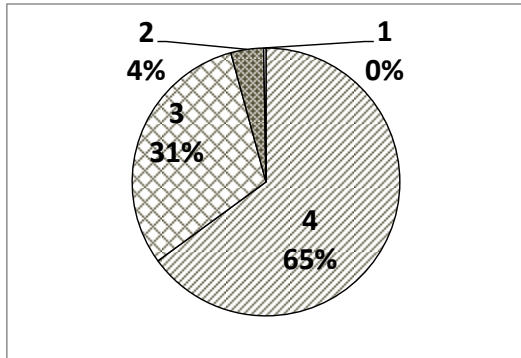
■ 児童 ■ 保護者 ■ 教職員

※ それぞれのアンケートの項目をA～Eに分けて、児童・保護者・教職員の「あてはまる:4」「ややあてはまる:3」「ややあてはまらない:2」「あてはまらない:1」の割合を合計しました。(児童・保護者・教職員各100% 合計300% ※Eのみ200%)

「A 意欲的に学習に取り組む・基礎基本が身についている」と「B 思いやりの心が育っている・進んで行動できる」については、保護者・教職員共に「あてはまる」より「ややあてはまる」が上回っています。基礎基本を定着させ、学習意欲を高める授業改善を引き続き行っていくことと、心を育てる道徳教育の充実に課題意識をもって取り組んでいきます。

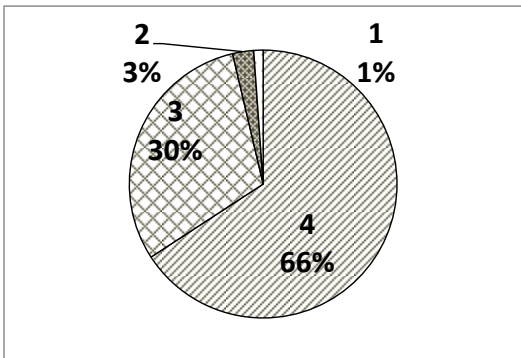
学校評議員会では、肯定的に答えられない子どもたちに、どのように支援をしていくとよいかを考えていくことが大切であるというご意見をいただきました。また、来年度より、道徳の教科化や3・4年生からも外国語活動が始まります。これからも、地域・保護者の皆様と力を合わせ、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思っております。

<A> 意欲的に学習に取り組む・基礎基本が身についている



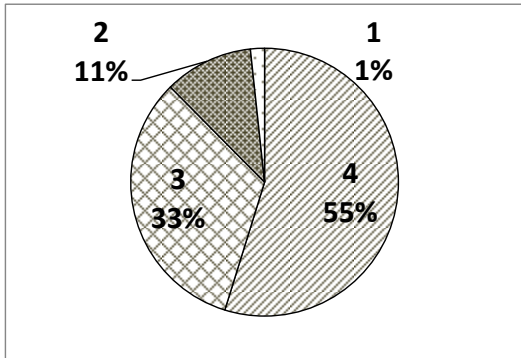
92%の子が「あてはまる」「どちらかというあてはまる」と答えています。高学年になるにつれ、学習に苦手意識をもつ子が増えていく傾向にありますが、本校では、高学年の子も学ぶ意欲が高い子が多いと考えられます。子どもたちが「分かる」「できた」喜びを味わうことができる学習を進め、高学年として多くの子どもたちがこれからも、学校行事や学習場面で、子が達成感を味わえるようにしていきたいと思ひます。

 思いやりの心が育っている・進んで行動できる



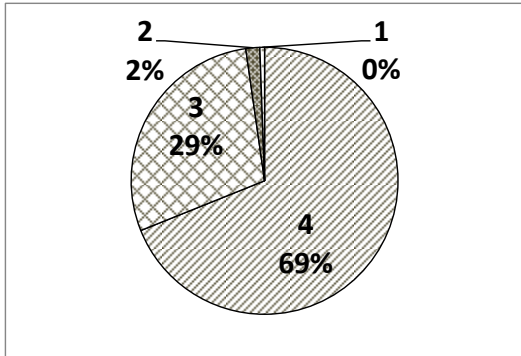
92%子が、「あてはまる」「どちらかというあてはまる」と答えています。高学年でも挨拶ができていると感じている子が多いと思ひれます。また、通学班やふれあい活動等で、高学年と低学年の関わりが多くみられ、相手のことを思いやる気持ちが育っていることがうかがえます。今後も、「どちらかというあてはまらない」「あてはまらない」と答えた子への声掛けや支援を続け、思いやりの心を育てる活動を続けていきたいと思ひます。

<C> 進んで運動に取り組もうとしている



82%の子が、「あてはまる」「どちらかというあてはまる」と答えています。昨年より少し割合が上がっています。しかし、他の設問に比べると、まだ低いことから、進んで運動できるような授業や体育集会などの取り組みを工夫し、運動の習慣が身に付くよう働きかけを行っていききたいと思ひます。

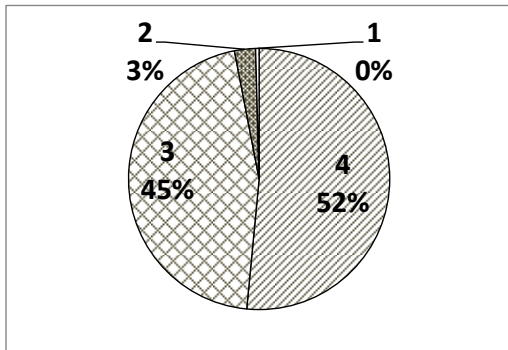
<D> 学校生活を楽しんでいる



92%の子が「あてはまる」「どちらかというあてはまる」と答えています。多くの子が学校生活を楽しんでいることがうかがえます。「どちらかというあてはまらない」「あてはまらない」と答える子が低学年よりも多くなっています。高学年になるほど、さまざまな悩みや不安を抱える子が増えます。これからも、教育相談やカウンセリング等、一人一人の心に寄り添う支援をしていきたいと考えています。

平成30年度 鳴子小学校 学校評価結果分析 低学年児童

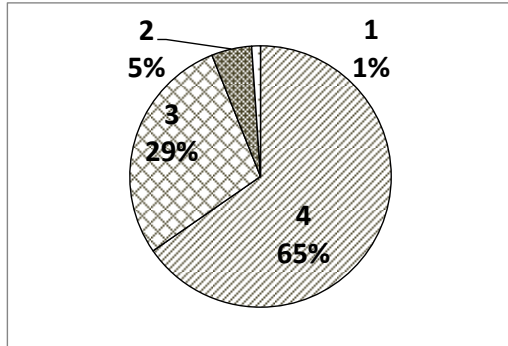
<A> 意欲的に学習に取り組む・基礎基本が身についている



93%の子が、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と答えています。「読むこと」「書くこと」「計算すること」は学習の基礎です。この基礎は、その後の学習の土台となる大切なものです。

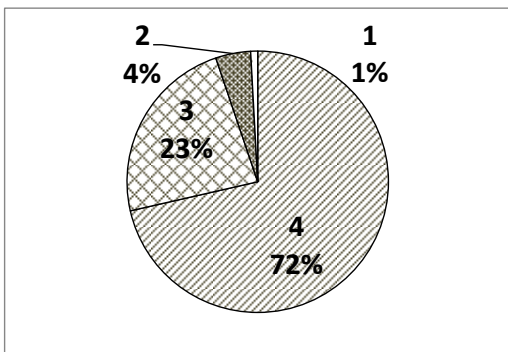
本年度は、学校努力点で国語科の学習に取り組み、低学年は、話す・聞くにも取り組みました。多くの子が、「できている」と感じられるよう、これからも指導をしていきます。

 思いやりの心が育っている・進んで行動できる



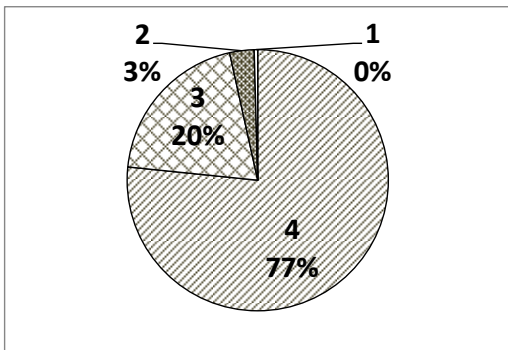
94%の子が、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と答えています。低学年のうちから「挨拶しよう」「なかよく助け合おう」という気持ちが育っていると思います。今後も、学校行事や学習活動で子が協力して活動できる場面を設定し、より多くの子が「協力できた」と感じられるようにしていきたいと思います。また、挨拶についても、挨拶の意義を伝え学校全体で取り組んでいきたいと思います。

<C> 進んで運動に取り組もうとしている



92%の子が、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と答えています。体育の時間だけでなく、25分の休み時間にも、外で元気に遊ぶことができています。これからも、体を動かす習慣が身に付くようにしていきます。

<D> 学校生活を楽しんでいる



96%の子が「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と答えています。学校が楽しいと感じている子が多いことは大変喜ばしいと思います。しかし、「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」と答える児童が少数いることも結果に出ています。すべての子が「楽しい」と感じられるよう、これからも児童理解に努めていきたいと思っています。